



April 24th 2020

BGN UNESCO NEWS

Bunka Gakuen Nagano Jr. & Sr. High School 号外

SDGs 「行動の10年」 Decade of Action from 2020

SDGs 行動の10年が始まった矢先に 世界はpandemic突入 枯木竜吟

私たち人類は2020年、誰も想像していなかった試練を迎えている。世界が遮断され、経済的な破壊から影響を受ける私たちは、何を学び、成長していけるのか？

学校など日常の暮らしの利便性から自由を失った今、皆それぞれに本当の幸せや、時間の価値観について様々な考え方や気づきがあることと思う。

紛争や戦争とは別の意味で、真の平和を真剣に考える時間を与えられたようにも感じる。このpandemicが終息した後に、どんな社会を迎えたいか？経済的な予測は目にするが、「意識の変容」はまだ未知の世界であろう。世界中に非常事態宣言が発令された今、人類に与えられたこの時間をどう使うか。真の意味で開放された自由とは何か？平和な暮らしとは何か？このタイミングだからこそ、「持続可能な社会の未来」を真剣に想像したい。

世界中で猛威をふるっている新型コロナウイルス。日本国内では3月下旬頃から急激に感染者数が増加し、日本政府は4月7日に緊急事態宣言を発令した。

突然の休校。その間、あなたは何を考え、行動した？

受験生なので勉強に費やした。家事も毎日、とても新鮮だった。そして何より母と将来に関わる話ができ、考えが深まったこと、休校のおかげだと思う。何もできないからこそ、何かしようと考えて生活した。(高3-3F)

Web会議Zoomを2回行った。「世界の課題と身近な課題、その解決策について」文化学園執行部有志と信大教育学部の学生中心に行われた。未来大人会議。「できない」と決めれば何もできない。「何かできる」という視点で仲間とともに考えていきたいと思う。(高3-7F)

Youthreachに参加。長野の高校生・大学生で学校の枠を超えてSDGs実現に向けたアクションプランを検討した。自粛・要請・不要不急の定義を再考した。改めて「言葉」と「行動」の繋がりを考えた。(高3-6M)



大した事はしていないが、コロナについて、政府の対応、世界の動向など情報収集をした。まず正しく知る！(高3-6M)

未来大人会議にて

感染拡大で世界中の人々の自由が奪われている。全てをウイルスのせいにしていいのか。行動や振る舞いを皆で考え行動していきたいと強く思う。(高3-4F)

ニュースを見ている。不安だからこそ、自己の願望を押し付けることで団結するのではなく持続可能な社会にするために団結したい。(高3-3F)

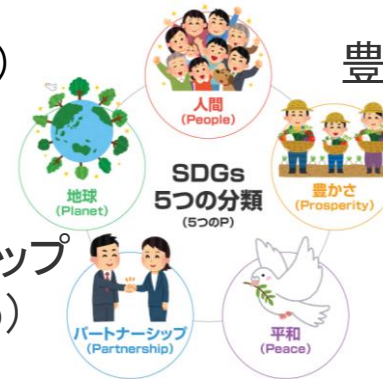
まず家族と一緒に食卓を囲むことが増えた。お互いのことをよく話した。絆の深まり。また、志望校が一緒の友と目標を立てて励まし合いながら、学習に取り組めた。一人の戦いではない、絆、繋がりを再認識。(高3-4F)

新型コロナウイルス、正解を求めずに、SDGs基本原則「5つのP」から考えてみよう

人間 (People)

地球 (Planet)

豊かさ (Prosperity)

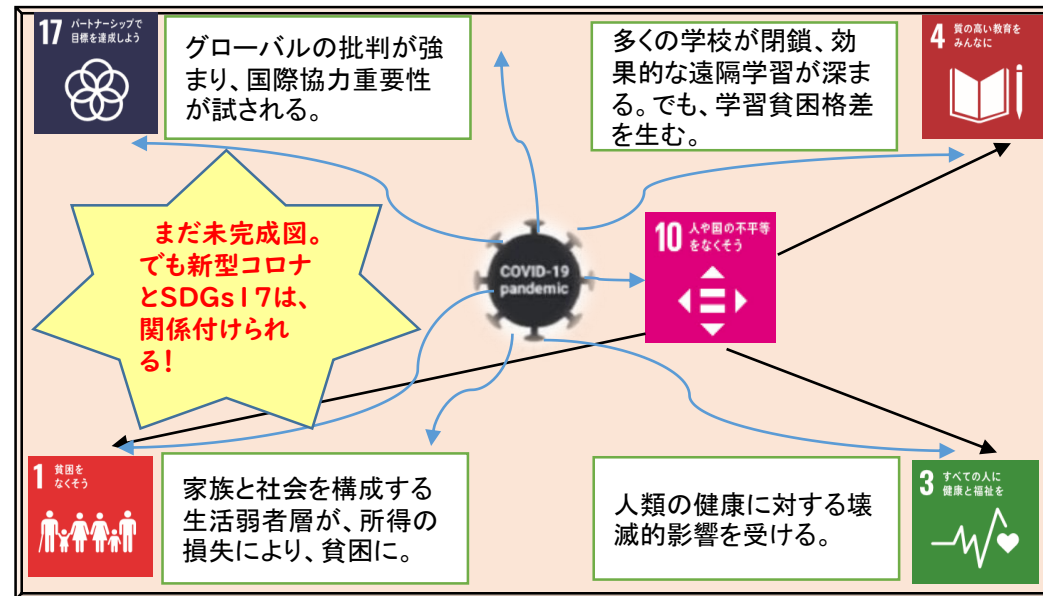


パートナーシップ (Partnership)

平和 (Peace)

新型コロナウイルスとSDGs関係を考えてみた！

文化学園長野高校 Aさんの考え: 普段、SDGs17に興味がある。



4/1締切の学生米国記者派遣に7名がトライ。しかし事業は中止。裏面にいくつか応募作品を掲載 裏面へ



「拓」

文化学園長野高校 3年 小林 叶

私は、高校2年の秋に修学旅行でイギリスに行った。そこは、活気に溢れた国であると感じた。事前学習の中で私は、EU 離脱に興味を持った。新聞の一面を飾った EU 離脱当日、日本時間で2月1日午前8時。私は新聞の大きな見出しに見入った。今後の日本や世界にどのような影響が出るのか、そしてイギリスにとってどんなメリット・デメリットがあるのか、そんなことに疑問を感じながら記事を探した。

記事を読み、私は問題が大きく2つあると考えた。まず一つ目は、イギリスは世界の上位に入るほど経済や商業が栄えている国である。そのイギリスが離脱をすれば、世界の経済に影響を及ぼすことは避けられない、ということ。そして二つ目は、移民問題である、ということ。イギリス国土は6人に1人が移民・難民であり、これはEUによるもので結果、治安や税金などの問題に、国民の不満が噴出した。記事には、「イギリスは外国との自由貿易協定に向けた交渉に入るが、難航すれば経済や人々の生活に混乱が生じる可能性がある。他にも、イギリスには多くの日系企業があり、その中の日産自動車やトヨタ自動車などがイギリス各地に工場を設置し、年間80万台の車を生産している。しかし、使用されている部品のほとんどをヨーロッパから調達しているため、EU離脱後は部品の調達がスムーズに行われなくなってしまう。」と書かれていた。

私がもう一つ疑問に感じたメリット・デメリットを述べたい。メリットには、EU のルールに従わなくて良いため、移民難民の受け入れなどを自国で判断ができる。反対にデメリットには、加盟していた今までは、EU 内を自由に行き来できていたが、離脱後は外国と同様の扱いをされるため、出国や入国の手続きが必要になる。

今後どうなるのか誰にも予想がつかない。だからこそ、私は日本人の一人としてどうしたらいいのか考え、知恵をだし、未来を切り拓きたい。そのためにも、仲間と共に考え、実践できたらと思っている。

令和二年度 学生米国記者派遣 応募作品より

「家族」

文化学園長野高校 2年 飯島 早紀

今、日本では、子どもが巻き込まれる凶悪な事件や家族など身近な人による痛ましい虐待が数多く起こっています。ニュースや新聞で、何度も目にして、その度に心が痛みます。そこで私は、学校で行っているSDGsの探究学習で、ゴール16のターゲット2を選択し、「児童虐待」について調べました。実際に、児童相談所にも訪問させていただきました。

ここでは、二人の児童福祉司の方に話を聞いたのですが、まず一番驚いたことは、児童福祉施設の収容人数に限界があるため、保護が必要であるにもかかわらず、そのほとんどが面接指導で終わってしまうということです。その後も、家庭への訪問などの見守りは続きますが、深く関わるには限界もあります。面接指導で家庭に戻しても大丈夫という確証が得られなくても、全ての子どもを保護するわけにはいかない行政の現状もあると知り、日本における虐待の諸課題が見えてきました。

米国の対応についても調べました。米国では、12歳以下の子どもの、一人留守番の禁止、外のトイレも、子ども一人では行かせないなど、日本より保護に力を入れていることが分かりました。しかし、「児童虐待」を引き起こす場が「家庭」であること。「核家族化やステップファミリーの増加により“家族”の関係性が危うくなっているのではないか」、「子どもの心身の発育には、継続的で安定した親子関係が必要なのではないか」、「そもそも家族とは」、と思ったのです。

そこで私は、可能な範囲で家族形態とともに、「あなたにとって家族とは？」という質問をさせて頂き、日米のそれを比較して、改めて「児童虐待」の課題に向き合おうと思います。そして今年本校で発足した「未来大人会議」の議題に挙げ、仲間と共に話し合い、「自分たちができること」を探るつもりです。